

誰もが知っているクラシックの名曲をカジュアルに

世界で一番楽しい! クラシックコンサート

「世界まるごとクラシック ～年末大感謝祭 2008～」

9月12日(金)よりチケット一般発売開始

株式会社 光藍社(本社:東京都文京区、代表取締役社長 安原 孝一)と株式会社エンタテインメントプラス(本社:東京都品川区、代表取締役社長 橋本行秀、サービス名:“イープラス”)は、2008年12月22日(月)、世界で一番楽しいクラシックコンサートと自負する「世界まるごとクラシック」の“年末大感謝祭 2008”を開催し、9月12日(金)より、チケットの一般発売を開始いたします。

合言葉は“イージー、クラシックヘカモン!!” 新世代のクラシックコンサート

近年、クラシックコンサート市場は、音楽コンサート全体の市場規模が停滞傾向の中で、比較的堅調に推移しています。その要因として、2005年4月に発売された「ベスト・クラシック 100」(東芝EMI)が70万セット以上の大ヒットとなったことや、音楽家を主人公にしたコミック「のだめカンタービレ」(講談社コミックキス)が800万部以上を売り上げ、さらにテレビドラマ化され高視聴率を記録したことなどにより、クラシック音楽のリスナー層が拡大していることが考えられます。

「世界まるごとクラシック」は、“イージー、クラシックヘカモン!!”を合言葉に、誰もが耳にしたことのある、誰もが知っている、クラシックの名曲ばかりを集め、とにかく楽しく、カジュアルにクラシックに親しんでいただけるコンサートです。テレビや映画で耳にしたことのある曲目を、適度な長さで演奏。テレビなどでもおなじみの青島広志がホストとして、おもしろおかしく、そしてわかりやすく曲目を解説します。また会場には、通常のクラシックコンサートではありえない、巨大スクリーンを設置し、演奏中の演者の表情や手元の動きを大画面で楽しむことができます。

2回目の開催となる今回は、ゲストに人気ヴァイオリニストの川井郁子と今もっとも話題を集めているピアニストの清塚信也を迎え、2008年の年の瀬を大いに盛り上げます。

記

- イベント名: 「世界まるごとクラシック ～年末大感謝祭 2008～」
- 日時: 2008年12月22日(月) 15:00 開演 / 19:30 開演 (2回公演)
- 会場: 東京国際フォーラム ホールA
- 料金: 全席指定 5,000円 / トライアルシート*3,000円
3歳のお子様よりご入場可能。チケットはお1人様1枚必要。
*トライアルシート: 公演1ヶ月前時点(11/22)で前売券に残席がある場合にイープラスで発売。
- 発売: 2008年9月12日(金) 10:00よりイープラス <http://eplus.jp/sekai/>、
チケットぴあ等で一般発売開始
- 出演: 青島広志(指揮・お話・構成)、川井郁子(ヴァイオリン)、清塚信也(ピアノ)、
小野勉(テノール)、THEATER ORCHESTRA TOKYO(オーケストラ)、
平松混声合唱団(合唱)、行田フロイデ(合唱) 他

主催： テレビ朝日 / 朝日新聞社 / イープラス / 光藍社
協力： Arts & Son International、オフィス・トゥー・ワン、レイヴンジャムファクトリー
予定曲目： 「くるみ割り人形」より“行進曲”“あし笛の踊り”“花のワルツ”(チャイコフスキー)、
「キラキラ星変奏曲」(モーツァルト)、「タイスの瞑想曲」(マスネ)、
「チャールダーシュ」(モンティ)、「ハレルヤ・コーラス」(ヘンデル)、
「英雄ポロネーズ」(ショパン)、「軍隊行進曲」(シューベルト)、
「四季」より“冬”(ヴィヴァルディ)、「きよしこの夜」「もろびとこぞりて」
(クリスマス賛美歌)、「ピアノ協奏曲」第1楽章(グリーグ) 他
15:00 の回と 19:30 の回で曲目が一部異なります。
演奏曲目は変更になる場合がございます。

以上

出演者プロフィール

・青島広志(指揮・お話・構成)



1955 年東京生まれ。東京芸術大学および大学院修士課程を首席で修了し、修了作品のオペラ「黄金の国」(原作:遠藤周作)が同大図書館に購入され、過去 2 回の東京都芸術フェスティバル主催公演となる。作曲家としては「火の鳥」(原作:手塚治虫)、「黒蜥蜴」(原作:三島由紀夫)、管弦楽曲「その後のピーターと狼」、合唱曲「マザー・グースの歌」、ミュージカル「11ぴきのネコ」など、その作品は200曲に及ぶ。ピアニスト・指揮者としての活動も 35 年を迎え、最近ではコンサートやイベントのプロデュースも数多くこなしている。

NHK「ゆかいなコンサート」の初代監督を 8 年務め、現在もNHKラジオ「みんなのコーラス」「高校音楽講座」にレギュラー出演のほか、日本テレビ「世界一受けたい授業」、テレビ東京「たけしの誰でもピカソ」、テレビ朝日「題名のない音楽会 21」、TBS ラジオ「こども電話相談室」にも出演。

著書に『モーツァルトに会いたくて』『青島広志でございます!』(学習研究社)、『やさしくわかる楽典』(日本実業出版社)、『作曲ノススメ』(音楽之友社)、『21 世紀こどもクラシック』(全 5 巻・小学館)、『音楽家ってフシギ』(東京書籍)、『オペラ作曲家によるヘンなオペラ超入門』『作曲家の発想術』(ともに講談社)などがある。東京芸術大学、都留文科大、都立芸術高校講師。日本現代音楽協会、作曲家協議会、東京室内歌劇場会員。

・川井郁子(ヴァイオリン)



香川県高松市出身。東京芸術大学卒業。同大学院修了。大阪芸術大学(芸術学部)教授。国内外の主要オーケストラをはじめ、世界的コンダクター、チョン・ミョンフンとも共演。更にジャンルを超えて、シーラ・E、フェイ・ウォンやジブシー・キングス他ポップス系のアーティスト達、バレエ・ダンサーの熊川哲也とも共演している。活動の場は日本だけではなく韓国、台湾などアジアにも広がる。アメリカでもフィギュア・スケート選手のミシェル・クワンが「レッド・ヴァイオリン」の曲を使用して世界選手権で一位に輝き、川井の名前が一躍注目を浴びた。作曲家としても、ジャンルを越えた音楽作りに才能を発揮。2003 年 12 月、東京国際フォーラムで自作の「オーロラ」を東フィルと共演、大成功を収めた他、テレビや CM 等映像音楽の

作曲も手がける。その活動は多岐にわたり、舞台では、自身の音楽世界に加え独自の表現世界を持ち、舞踊劇・音楽劇の出演や、2005 年からはオリジナルステージ『Duende』(ドゥエンデ)のシリーズ化などますますその活動の場を広げている。また、困難な環境にある子供へもサポートを行うために「川井郁子 Mother Hand 基金」を設立、日本 UNHCR 協会(国連難民高等弁務官事務所)の評議員を務めるなど社会活動にも積極的に取り組んでいる。オリジナルアルバム「レッドヴァイオリン」「オーロラ」「嵐が丘」、抒情歌アルバム「La Japonaise」(ビクターエンタテインメント)が発売され、クラシック界では異例の発売記録を更新。昨年、初のベストアルバム「The Violin Muse」が話題を呼び、本年 7 月には、ニューアルバム「新世界」をリリース。同アルバムツアーは、国内のみならず初のニューヨーク カーネギーホール公演を含め開催する。現在は、「ミューズの晩餐」(テレビ東京系)、「川井郁子ハートストリングス」(ニッポン放送、ABC ラジオ)にレギュラー出演中。使用楽器:アントニオ・ストラディヴァリウス(1715 年製作、大阪芸術大学所蔵)

川井郁子ホームページ <http://www.ikukokawai.com>

・清塚信也(ピアノ)



1982 年 11 月 13 日生まれ。東京都出身。1996 年、第 50 回全日本学生音楽コンクール全国大会中学校の部第 1 位。2000 年、第 1 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 第 1 位。2001 年、桐朋女子高等学校(共学)を首席で卒業。モスクワ音楽院へ留学。2002 年、第 2 回フランツ・リスト国際ピアノコンクール(ポーランド)ディプロマ。2004 年、第 1 回イタリアピアノコンクールソ金賞。2005 年、日本ショパン協会主催ショパンピアノコンクール第 1 位。2006 年、ギリシャ/レシムノン「ザイラー国際ピアノコンクール 2006 /

部門 36 歳以下」3 位入賞。2007 年、スイス・ルツェルン劇場にて、シェイクスピア劇「テンペスト」の音楽監督を務める。年 150 本を超えるコンサート活動を軸に、CD、TV-CM、映画、テレビドラマの分野でもマルチな活動を展開。聴衆の心を揺さぶる彼の表現力は、各方面で高い評価と厚い支持を得ており、知識とウィットに富んだトークを交えた彼ならではのコンサートは毎回多くのファンを魅了している。最近では、ドラマ「のだめカンタービレ」にてサウンドトラック演奏および劇中の「千秋真一」のすべての吹き替え演奏を担当。映画「神童」では主人公「和音(ワオ)」の吹き替え演奏、ピアノ演奏指導に加え、講師役で出演。「2007 年 12 月、アルバム「熱情 ~ Appassionata ~」をリリース。」現在、若手ピアニストの中で注目度ナンバーワンといえる存在である。